



①歓迎会で、高良町長のメッセージを披露する仲原交流団長 ②歓迎会で児童全員によるエイサーを披露 ③幾寅小全校児童の前で三線を披露 ④幾寅小5年生児童との交流 ⑤カーリング体験では落合小・北落合小の児童と交流 ⑥スキー体験では金山小・下金山小の児童と交流 ⑦犬ぞり体験 ⑧かなやま湖でワカサギ釣り ⑨⑩ラーチで濡れタオルやシャボン玉を凍らす実験

「友好の町」沖縄県本部町  
親善交流団が来町し交流を深める

「友好の町」沖縄県本部町との間で、平成3年から行われている親善交流事業として、本部町から22名の交流団の皆さん（小学5年生17名、随行者5名）が、1月31日から2月4日までの日程で本部を訪れ、町内の児童との交流を深め、白銀の大地『冬の北海道』を体験しました。

1月31日、午後6時からみなくるで開かれた歓迎会では、池部町長が歓迎の挨拶を述べた後、仲原本部町交流団長から、「回を重ねるごとに両町の絆が深まり、大変うれしく思っております。今回で20回目を迎えますが、この交流事業が益々発展継続出来ますようお互いに努力してまいります」と高良本部町長のメッセージが読み上げられました。

本部町の児童からは、「スキーやカーリングを体験することが楽しみです」など一人ひとり自己紹介をした後、全員が元気にエイサーを披露し、大きな拍手を浴びていました。

交流団の一行は、翌日の午前中に幾寅小学校を訪問し、歓迎集会や5年生児童との交流学習が行われ、屋外でのチューブすべりや雪合戦などで交流を深めました。午後からは、落合のどんこ野外学校で犬ぞりを体験し、空知川スポーツリンクスでは、落合・北落合小学校児童とカーリング体験を通して交流を深めました。リンクの上を歩くのは初体験とあって、悪戦苦闘する児童もいましたが、地元児童から、ストーン投げ方などを教わり、ミニゲームなどを楽しみました。この日の夜、宿泊先のログホテルラーチでは、屋外でシャボン玉や濡れタオルが凍るか実験し、見事成功。はじめての体験に皆さん感激していました。

3日目は、早朝からかなやま湖でワカサギ釣りに挑戦。はじめて触る小さな釣竿に戸惑いながら、釣り上げたワカサギに児童の皆さんも大喜びでした。

スキー場では、金山・下金山小学校の児童とスキー体験を通じた交流が行われ、先生方や地元児童から指導を受けて、ほとんどの児童が滑れるようになりました。

この日の夜は、各ホームステイ先で交流を深めました。

2月3日の早朝には、ホームステイ先の家族に見送られ、本町を離れた交流団の皆さんは、札幌市内を見学し、翌日、たくさんのお土産を胸に帰路につきました。

第6回  
かなやま湖氷上ばかんす！  
真冬のかなやま湖を満喫

2月13日、一面に銀世界広がるかなやま湖の特設会場で、町商工会青年部の主催による「第6回かなやま湖氷上ばかんす！」が行われました。

この日は、天気がよく、会場には、町内外から約500名の皆さんが来場し、氷上での様々な催しを楽しみました。

恒例の「アラスカ野球大会」には、町内から4チーム、札幌や旭川などから4チームの合わせて8チームが出場。三角ベースの逆周りで、各打者が事前にオーダーする飲み物が熱々のおでんを完食した後一塁へ走ります。試合では、なかなか飲み物を完食できずにベースを踏む前にアウトになってしまふなど、笑いと歓声の中、参加した皆さんは、ハッスルプレー全開でした。競技の結果、札幌からエントリーした「チームサウスヤード」が優勝し、2連覇を目指した地元幾寅小学校の先生方で編成されたチーム「ガンバライド幾小」は準優勝でした。

会場には家族連れや子ども達も楽しめる催しが、盛りだくさん行われ、「ワカサギすくい」では、雪で作った生けすからすくったワカサギを売店で天ぷらにして、揚げたてのワカサギを味わっていました。

また、日本一寒くて孤独な氷上ランニングレースとして、「かなやま湖アイス・ラン」が行われました。クロスカントリースキーやスノーシューなど参加スタイルもフリーで、参加した12名はダム堤から会場まで約6kmの氷上での過酷なレースに挑戦しました。

売店会場では、カレーなべやワカサギの天ぷら、おでんや豚汁、おしるこなど、からだを温めるメニューが並び、行列が出来るほどの大盛況でした。その他、特産の鹿肉ジンギスカンなども販売され、広場に用意された炭の簡易コンロを囲み、舌鼓を打っていました。



かなやま湖アイスラン アラスカ野球  
（最後のゴールは、ウルトラセブン？） （飛んだのはボール？） （ヘッドスライディング）  
（最後の坂をラストスパート）  
犬ぞり体験 だるま落とし 雪中宝探し スノーラフティング  
売店前広場で鹿肉ジンギスカン ワカサギすくい